2U-6(P)　徳島県周辺における独居高齢者の配食サービスに関する意識と実態

○宇山裕子*・明槻とし子*・遠藤千鶴**・西山敬太郎**・三好　保**
(*四国短大　　**四国大生活)

［目的］ 在宅の高齢者、障害者等に対する基本的な福祉サービスの一つに食事サービスがあげられ、毎日の栄養管理はそれらの人々の健康維持のみならず、生活の質的水準を高めるために大きな意義があると考えられる。在宅支援の一つとして配食サービスがあるが毎日型の実施率は低く、その要望は高まりつつある。今回は独居高齢者の配食サービスに関する意識と実態から、今後のあり方について検討した。

［方法］調査対象者は徳島市周辺三町在住の70歳以上の独居高齢者より無作為に329人抽出し、調査時期は1997年7月に実施した。調査は配食サービスに関するアンケート項目を訪問聞き取り法で行い、集計は統計処理ソフト「秀吉」を用いた。

［結果］アンケートの有効回収率は71.4%であり、対象者の平均年齢は男性77.4歳(35人)女性76.0歳(200人) であった。現在病気のために通院している人は63%を占め、そのうち半数は高血圧であった。また、自分の歯が全くない人は41%であった。日常生活については93%の人が自分のことは自分ででき、91%の人が自分で料理を作っていた。"自分で料理ができる"ということは一人暮らしをする最大の条件であった。配食サービスを受けている人は27%と比較的少なく、配食サービスについて改善してほしい項目には和食メニューおよび実施回数の増加などの要望があげられていた。今後、在宅高齢者の増加が見込まれ、財政的負担など行政的な問題も含めサービス全体のあり方を考えていく必要があると思われた。